

中日高齢者和儿童福祉的研究 日中高齡者と子どもの福祉に関する研究

中国 东北师范大学
日本 東北福祉大學



NORTHEAST NORMAL UNIVERSITY PRESS
东北师范大学出版社
WWW.NENUP.COM



中日高齢者和儿童福祉的研究 日中高齡者と子どもの福祉に関する研究

中国 东北师范大学
日本 東北福祉大學

东北师范大学出版社

长 春

图书在版编目 (CIP) 数据

中日比较/高龄者和儿童福祉的研究/柳海民, (日)
雪江美久编著. —长春: 东北师范大学出版社, 2008. 10
ISBN 978 - 7 - 5602 - 5501 - 9

I. 中… II. ①柳 ②雪… III. ①老年人—社会福利—对比研究—中国、日本 ②儿童—社会福利—对比研究—中国、日本 IV. D632.1

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2008) 第 153136 号

☐责任编辑: 魏芳华 ☐封面设计: 张 然
☐责任校对: 刘 阳 ☐责任印制: 张允豪

东北师范大学出版社出版发行
长春市人民大街 5268 号 (130024)

销售热线: 0431--85687213

传真: 0431--85691969

网址: <http://www.nenup.com>

电子函件: sdcbs@mail.jl.cn

东北师范大学出版社激光照排中心制版

吉林省吉育印业有限公司印装

2008 年 10 月第 1 版 2008 年 10 月第 1 次印刷

幅面尺寸: 170mm×227mm 印张: 32.5 字数: 435 千

定价: 65.00 元

中日比较 高龄者和儿童福祉的研究

编 委 会

主 编 柳 海 民 (中国东北师范大学 副校长 教授)
雪江美久 (日本東北福祉大学 教授)

编著者 (按姓氏笔划为序)

大 倉 峰 雄 (日本東北福祉大学 講師)
中 里 仁 (日本東北福祉会「せんだんの館」施設長)
光 永 輝 彦 (日本東北福祉大学 特任教授)
江 尻 行 男 (日本東北福祉大学 教授)
西野美佐子 (日本東北福祉大学 教授)
张 明 (中国东北师范大学 教授)
谷 峪 (中国东北师范大学 教授)
阿 部 裕 二 (日本東北福祉大学 教授)
周 霖 (中国东北师范大学 讲师)
柳 海 民 (中国东北师范大学 教授)
盖 笑 松 (中国东北师范大学 副教授)
雪江美久 (日本東北福祉大学 教授)
福 地 一 雄 (日本東北福祉大学 教授)
路 海 东 (中国东北师范大学 教授)

卷頭言

序言 I



日本東北福祉大学
学長 萩野浩基

ここに中国・東北師範大学と日本国・東北福祉大学との間に締結された学術交流協定にもとづき、締結以来3年間にわたってすすめられてきた両大学の教職員による共同研究の成果がまとめられ、公刊に至りましたことを心から祝福申し上げます。

顧みますと東北師範大学史寧中校長殿と私の立会いの下、2004年10月、両大学間で学術交流協定が締結されましたが、以後、今日にいたるまで両大学学長の相互訪問による特別講義の開催、7回にわ

中国东北师范大学与日本国东北福祉大学自签订学术交流协议以来，两校学者进行了三年的共同研究，在双方教取员工的共同努力下研究成果现已出版，在此深表祝贺。

回顾当初，我与东北师范大学史宁中校长于2004年10月共同签署两校学术交流协议。此后，两校校长进行互访并作了纪念演讲，举行七次学者

高齡者和兒童福祉的研究

たる両大学での教職員による共同研究会の開催、さらに学生の相互訪問、またサイバーキャンパスによる専門教育の機会の確保など数々の成果を挙げてきました。

このたびの共同研究は、中日両国が当面している子どもの健全育成に関わる問題と、急速にすすんでいる高齢化の動きのなかで噴出している高齢者問題を研究テーマとして取り上げ、実証的研究を通じて、その成果を分かち合い、今後の問題解決のための施策の立案に役立てていくことを目的としていましたが、はじめての共同研究ということもあって残された課題も多くあるようです。とはいえ、歩み出した両大学の交流が今後大きく芽を伸ばし、幹を太らせ、枝を張り、豊かな成果を実らせ、両大学の発展に対してはもちろんのこと、両国の繁栄と友好親善に寄与することは間違いないものと確信しています。

中日両国間におきましては一時、大変不幸な時期がありましたが、その折にわが国の同胞が貴国の皆様方からいただきました温かいご芳情に対しまして心から感謝して

間共同研究会、开展学生間相互交流、通过网络课程确保了受专业教育的机会等，可谓成果显著。

此次共同研究以中日两国共同面临的儿童健康成长问题及日益严峻的老龄化问题为内容，通过实证研究并借鉴彼此的成果，为这些问题的解决提供了有价值的参考。尽管首次共同研究仍存在许多未解决的问题，但两校的交流业已生根发芽，日后必将枝繁叶茂，结出丰硕的果实。这对于两校的发展以及两国的繁荣、友好无疑将产生巨大的推动作用。

中日两国间有一段不堪回首的历史，我们衷心感谢当年中国人民对我国同胞的深情厚意，特别是中国人民给予残留孤儿的

おります。特に残留孤児にお寄せいただきましたお心は忘れることができません。今回の共同研究のテーマはわが国にとっても重要であり、歴史豊かな中国に学ぶこと
多々ありますが、一方で急速な経済発展を遂げている中国にとって大きな課題となっている社会福祉の領域に関しては、本学がこれまで蓄積してきた研究成果を分かち合うことができ、このような共同研究の機会を通じて少しでもお役に立つことができれば幸いです。

今回の共同研究の成果が公刊されることを機会に、ますます両大学の交流が深まり、両大学の発展と両国の親善が深まっていくことを祈っています。

2008年1月吉日

温情更是永世难忘。此次共同研究的内容对于我国来说十分重要，我们从历史悠久的中国学到很多。如果通过这样的机会也可以使经济高速发展且即将面对日益严峻的老龄化问题的中国分享到我们多年来积累的研究成果，将是我们的荣幸。

在此次共同研究成果公开出版发行之际，谨祝两校交流更进一步，愿两校发展及两国友好更上一层楼。

序言 II



东北师范大学
副校长 柳海民

时间在忙碌中匆匆而过。历时四年的中国东北师范大学与日本东北福祉大学的国际合作研究已告一段落并结出了丰硕的成果。总结四年的研究历程，主要特点是：

1. 研究过程规范。2004 年中国东北师范大学校长史宁中与日本东北福祉大学校长萩野浩基代表两校在长春签署了友好交流合作协议，其中，学术研究合作是协议的内容之一。为了落实两校的合作议程，在两校职能部门的积极推动下，中国东北师范大学成立了以柳海民副校长为组长，日本东北福祉大学成立了以雪江美久教授为组长的课题组，确立了“关于中日两国高龄人群福祉与儿童问题的国际比较”研究主题。课题组成员有：中

方的周敬思教授、张明教授、谷峪教授、路海东教授、盖笑松副教授、周霖博士；日方的福地一雄教授、江尻行男教授、西野美佐子教授、光永辉彦教授、大仓峰雄博士。研究主题与研究成员确定后，课题组根据双方商定的研究内容和研究计划，开始进入实质性的研究。

2. 研究内容前沿。课题组选择人生历程中的两端，即高龄人群和少年儿童作为研究对象。确定老龄福祉和儿童问题作为研究内容，恰恰是研究了两国当代社会中最需要又最少有人研究的课题。尤其在中国，老龄化社会已继日本之后悄然而至。高龄人群的物质保障、医疗保健、家庭生活、社会服务、心理健康等，独生子女的人格培养、家庭教育、身心发展等都已成为中国迫切需要研究的课题。但直到目前，有关这方面的系统研究还很少，尤其是高龄人群的福祉问题还没有进入到研究者的视野。可喜的是，中日合作研究课题组率先迈出了这一步。当然，由于研究的初始，刚刚起步的合作研究程度还不深，水平还不高，成果还不大。这既是一种遗憾，又为合作研究进一步深化和持续提供了逻辑起点和发展空间。

3. 研究路线清晰。回顾研究之初，课题组为合作研究确立了很好的逻辑假设和理性设计，并使研究进程的推进不断完善。表现在：①在总课题下确立了子课题和研究者；②明确了子课题的研究侧重点和研究方法；③建立了课题研究的推进机制，即互访交流（四年中，课题组进行了七次互访、磋商、成果交流活动）；④明确了成果形式和出版方式。在研究过程中，高龄人群组收集了两国政府关于老龄人口保障的各项政策，探讨了老龄

人口的幸福感、老年大学等内容。儿童发展课题组设计了中日互用的调查问卷,针对电视媒体对儿童的影响等问题进行了认真的探究。为了增加感性认识,课题组互访期间,还参观了与课题研究有关的机构、场所和学校。总的看,课题的研究信息立体多元,研究内容集中明确,研究方法科学有效,研究进程务实深入,达到了预期的研究目标。

4. 研究成果丰硕。课题研究成果主件《国际比较:中日高龄人群福祉与儿童问题研究》是中日双方研究人员智慧的结晶。成果中汇集了两国关于高龄人口福祉有关政策和规定的概述、中日高龄人群幸福感的比较、中日老年人社会福利事业发展现状、福利设施建设情况、中国老年大学的发展现状以及媒体对儿童成长影响的中日比较等,内容系统,中心突出,成果丰富,理论与实践结合,反映了中日两国研究人员的研究兴趣、研究能力和研究水平。这些研究成果不仅对推进两国相关领域的理论研究有一定的理论意义,而且对相关领域的实践发展亦有重要的借鉴价值。作为合作研究的重要成果,它还有力地培养了研究队伍,提高了双方研究人员的研究能力和科研水平,开阔了学术视野,增强了国际意识和国际交流能力。

5. 研究意义深远。在双方研究人员的共同努力下,通过四年的合作研究,我们如期完成了预定的研究任务,取得了预期的研究成果,为推进两国相关领域理论与实践的发展作出了贡献,这是本项研究的直接价值。其深远的意义还在于:它构建了两国学术交流的桥梁,为进一步寻找合作研究的新领域搭建了一个重要平台。合作

研究中，彼此加强了了解，增进了友谊。中国东北师范大学史宁中校长、日本东北福祉大学荻野浩基校长对合作项目的高度重视和支持，雪江美久教授对项目的认真负责，光永辉彦教授的乐观向上，西野美佐子教授的认真细致，大仓峰雄的积极沟通，以及其他教授的踊跃参与都给我们留下了难忘的记忆。特别值得一提的是，东北师范大学国际合作与交流处的安载鹤副处长，在整个项目的确立、推进和展开过程中，始终以饱满的热情和为事业负责的精神参与其中，为项目的顺利完成做了很多积极的工作。

路漫漫其修远兮，吾将上下而求索。项目的结束不是合作的终点，而是起点。愿两国合作研究的明天更美好。

2007年12月

目 录

序Ⅰ（萩野浩基学長）.....	1
序Ⅱ（柳海民副校长）.....	1

第一篇 共同比較研究篇

1. 高齢者の「ウエル・ビーング(幸せ)」実現に関する 日中比較研究 ——日本国宮城県O地区の事例(雪江美久、谷峪、大 倉峰雄)	3
老年人幸福感现状的中日比较研究 ——以日本宫城县O地区为例.....	42
2. 子どもを取り巻くメディア環境と子どもの 発達に関する日中比較研究 ——幼児・小学生・中学生を対象として (西野美佐子、張明)	71
儿童的媒体环境及与儿童发展相关的中日比较研究 ——以幼儿、小学生、初中生为对象	133

MULU

第二篇 高齡者福祉研究篇

1. 中国老年人社会福利事业的发展:现状、政策及其问题(柳海民、周霖) 189
2. 日本における高齡者雇用と人材戦略(福地一雄)
..... 213
3. 中国老年大学(谷峪) 234
4. 人口減少・少子高齡化における社会保障制度の現状と課題
——日本の社会保障制度改革とその方向性(阿部裕二)
..... 274
5. 民間介護事業者としての企業に関する若干の考察
——二律背反経営を念頭において(江尻行男)
..... 294
6. カウンセリング・エステ健康サービスの有効性(光永輝彦) 319
7. 「特別養護老人ホーム」の現状と課題
——実践者の視点から(中里仁) 340

目 录

第三篇 儿童福祉研究篇

1. 日本における「学社連携」の現状と課題(雪江美久)	359
2. 中国的独生子女政策及其相关问题(张明)	377
3. 中国儿童学习压力的表现、成因与缓解对策(路海东)	398
4. 母親のことばかけと幼児の気質との関連(西野美佐子)	426
5. 中国儿童的入学准备:教师观念与儿童状况(盖笑松)	450
6. 21 世紀を担う子ども達の生活意識に関する考察 ——子どもを取り巻く大人の意識調査(大倉峰雄)	469
あとがき—共同研究の経過 (雪江美久)	493

第一篇

共同比較研究篇

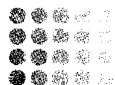
1. 高齢者の「ウエル・ビーング(幸せ)」
実現に関する日中比較研究
——日本国宮城県〇地区の事例
(雪江美久、谷峪、大倉峰雄)

老年人幸福感现状的中日比較研究
——以日本宮城县〇地区为例

2. 子どもを取り巻くメディア環境と子
どもの発達に関する日中比較研究
——幼児・小学生・中学生を対象として
(西野美佐子、張明)

儿童的媒体环境及与儿童
发展相关的中日比較研究
——以幼儿、小学生、初中生为对象

01



第一篇 共同比較研究篇

1

高齢者の「ウェル・ビーング（幸せ）」

実現に関する日中比較研究

——日本国宮城県 O 地区の事例

I 本研究の目的と方法

1 本研究の目的

本研究は、日中両国の研究者による共同研究「少子（一人っ子政策下）高齢化社会における子どもの健全育成と高齢者問題に関する実証的研究—中日両国の比較研究を通じて—」のうちの高齢者問題に関するものである。

今期の共同研究の目的は、少子高齢化が急速に進んでいる日本と、一人っ子政策・開放経済政策の下、日本国と同様に急速な高齢化を進めている中国において、共に求められている「子どもの健全育成」と「高齢者のウェル・ビーング（幸せ）実現」に関わる問題解決のための方策と、その展開について実証的に研究し、その成果を両国において役立てていくことにある。

家族をはじめとする子どもの成長を取り巻く生育環境の急激な変化、それを反映して現象化している子どもに見られる「成長の歪み」や「社会的病理現象」は、日中両国において共通した問題となっており、また、高齢者についても両国において多様な形で問題が噴出しており、早急な対策の確立が求められている。

本論の「高齢者のウェル・ビーング（幸せ）実現に関する研究」の目的は、特に日中両国の高齢者の生活と高齢者を取り巻